

# 林業ぐんま



## 目次

林政情報……………1

・「ぐんま森林クラウドシステム」の構築について……………1

・新規格林業経営作業道（幅員3.5m）の実証試験について……………2

・防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策の取組普及コーナー……………4

ぐんまの木製品展示会in高崎OPA各地のたより……………5

（渋川）「クマに注意！」林業現場のクマによる人身被害と対処・防止対策などの報告……………5

（西部）城下町にとけ込む木造校舎……………6

（藤岡）藤岡市産材を活用した「ふるさとの木で家づくり支援事業」……………7

（富岡）まだまだ活躍デピルス号（吾妻）春の緑化行事……………8

「緑の募金・苗木配布会」を実施（利根沼田）利根沼田森林組合の広葉樹利活用の取組み……………9

（桐生）館林市で発生したナラ枯れ対策について……………10

地域を担う人……………10

反町 虎太郎さん 阿部 真典さん 森の談話室……………11

「プレカット加工機の導入と林業振興、地域振興」……………11

多野産業株式会社 代表取締役社長 小坂裕一郎さん……………12

林業試験場から……………12

群馬産ムキタケの栽培実用化を目指して……………13

トピックス……………13

・林業改良普及協会 第六十三回 通常総会……………13

・令和三年度 優良林業推奨行事表彰式……………13



# 林政情報

## 「ぐんま森林クラウドシステム」の構築について

森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会への寄与だけではなく、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、私たちの暮らしを支える大切な存在です。

無秩序な森林の伐採や開発は、森林の荒廃を招き、山崩れや風水害等による災害を発生させる原因となります。また、森林資源を減少させ、安定的な林産物供給の面でも大きな支障をきたすおそれがあります。しかも、森林の造成には長期の年月を要することから、一旦このような状態になってから森林の機能の回復を図ることは容易ではなく、国民生活に大きな影響を及ぼします。

そのため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の管理を推進することが必要であることから、森林法において森林計画制度を定めています。

県では、民有林における地域森林計画を定めるため、森林基本図や森林計画図、森林簿といった森林の基本情報をデジタル処理し、個別に管理されていた図面や帳簿を一元管理する

システムとして森林GISを活用しています。

しかしながら、市町村や森林組合等林業事業体とのデータ相互利用は十分ではなく、最新の森林情報の活用による業務の効率化を推進することが課題となっており、また、専用のサーバ等ハードウェアやソフトウェアの更新に関わるシステム維持管理上の負担軽減についても、取り組むべき課題となっています。

一方で、平成28年度の森林法の改正により、林地台帳制度が創設されました。令和元年度には、森林経営管理法が施行され、森林経営管理制度（新たな森林管理システム）が始まり、あわせて森林整備を進めるための財源として森林環境税及び譲与税が新たに創設されました。

林地台帳制度の運用においては、森林簿・森林計画図と連携し、都道府県と市町村が相互に情報更新していく必要があります。また、森林経営管理制度の運用においても、森林の経営管理の状況や地域の実情を考慮する必要があるため、多種多様な森林情報を、県と市町村、更には地域の森林状況に精通した森林組合等の林業事業体と共有することが、これら制度の円滑な実施の上で有効となります。現行システムではこういった対応が困難となっています。

そこで、これらの諸課題を解決することを目的に、本県と市町村の間で既に結ばれてい

る総合行政ネットワーク（LGWAN）を利用し、「ぐんま森林クラウドシステム」を導入することで、森林情報をオンライン地図上でリアルタイムに共有し、業務の効率化と情報精度の向上を図ります。

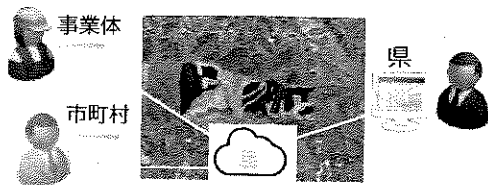
また、林業事業体については、インターネットによりシステム上の情報を得ることで、計画的な森林実施の実施と中長期的な事業計画の策定に利用できます。

群馬県、市町村、林業事業体がシステムを通じて、それぞれが保有する情報を共有することにより、業務の効率化と森林施業の低コスト化を進めるとともに、森林資源の循環利用を推進していきます。

### ぐんま森林クラウドシステムの構築

#### 県、市町村、林業事業体が参画する森林情報共有システム

- ① 森林の伐採情報等をリアルタイムに共有  
↳ 情報の精度の向上、業務の効率化
- ② webを活用して森林関連情報の利用が可能  
↳ 森林の新たな利活用



## 新規格林業経営作業道(幅員3.5m)の実証試験について

人工林の多くが本格的な利用期を迎える中で、森林資源の循環利用を進めるためには皆伐・再造林を推進することが重要です。皆伐の生産性向上のための施策の一つとして、大量の木材を効率的に山土場まで搬出できる大型のフォワーダの活用が有効です。

しかしながら、大型のフォワーダは全幅が2.3m程度あり、現状の林業経営作業道(3.0m)では余裕幅が少なく安全を確認しながらの走行となり効率が低下してしまいます。このため、大型のフォワーダが安全に効率良く走行できる新たな規格の林業経営作業道の整備が課題となっています。

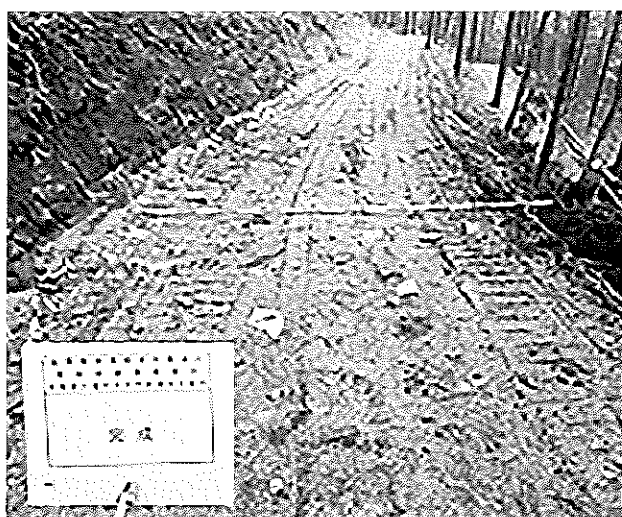
そこで、令和3年度に大型のフォワーダに対応した幅員3.5mの新規格林業経営作業道の実証試験を実施し、有効性や施工上の問題点等を検証しました。実証試験路線の概要は表1のとおりです。

新規格林業経営作業道を施工した受託者からは、「大型の重機が余裕を持って動ける」、「カーブでの見通しがよくなる」、「轍を割って走行できるため路面がいたみづらくなる」等の良い意見があった一方で、「急傾斜地での切土高が高くなってしまふ」、「急傾斜地で

のスイッチバックや分岐部の幅員の確保ができなくなる」等のマイナス面の意見もありました。  
令和4年度は実証試験結果を参考に、新規格林業経営作業道事業化に向けた標準断面や標準単価等の検討を行います。

表1 実証試験路線の概要

路線名	場所	受託者	延長(m)			委託費(千円)
			開設	改築	計	
大柏木線	吾妻郡東吾妻町大字大柏木字前原地内	吾妻森林組合	328	2,226	2,554	15,774
溝又入線	利根郡川場村大字門前字溝又入地内	利根沼田森林組合	1,458	-	1,458	
計			1,786	2,226	4,012	



溝又入線(完成)



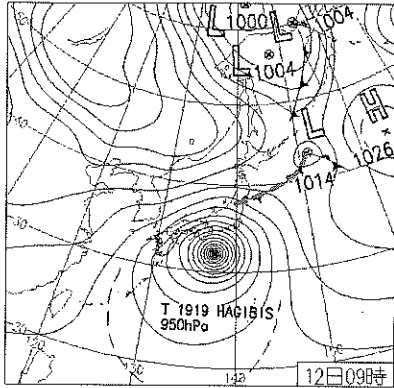
大柏木線(完成)

# 林政情報

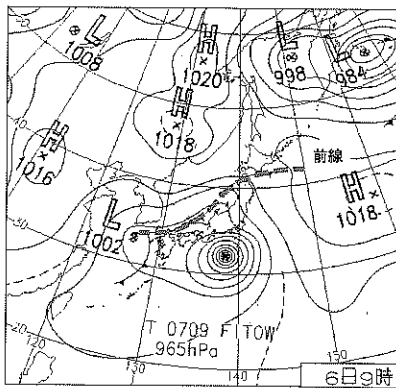
## 防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策の取組

群馬県は利根川の上流に位置し、県土の3分の2を占める森林は、豊かな水を育み、また、災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす県民共有の財産です。

一方で、近年地球温暖化が影響していると



RO1東日本台風



H19台風第9号

考えられる気候変動により、雨の量が極端に多い、雨の範囲が非常に広いなどの「異常な雨」が増加しているとの研究が発表されており、特に、梅雨前線が停滞しているときに台風が湿った空気を送り込み、大雨になるパターンが比較的多いとのことです。群馬県内で大きな被害が発生した平成19年台風第9号や令和元年東日本台風では、東北から日本海にあつた前線の影響により大雨となったものと考えられ、今後も注意が必要です。

### 防災・減災、国土強靱化の取組

急峻で脆弱な地質の山間部においては、豪雨等による山腹崩壊や、土石流による甚大な災害が発生しやすく、このような災害の危険性が高いと考えられる山地災害危険地区は、県内の民有林だけでも4,526箇所が指定されています。山地災害危険地区の位置情報はインターネット上で公開していますので、「マップピングぐんま 防災情報」で「自宅周辺の状況などをご確認ください。」

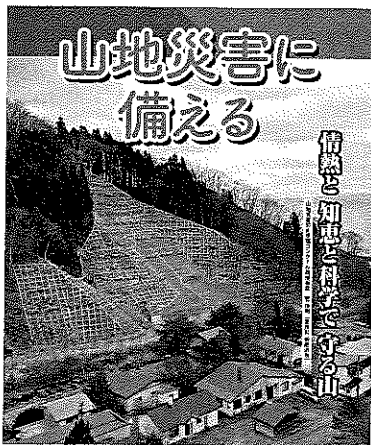
国では気象災害が激甚化・頻発化し、大規模地震の発生が切迫している中、社会経済システムが機能不全に陥る恐れがあるとして、対策の更なる加速化・深化を図るため「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を令和2年12月11日に閣議決定するとともに、令和2年度補正にて予算措置が行われ、

令和3年度にも補正予算が計上されました。県では、これら補正予算を積極的に活用し、災害発生危険度の高い山地災害危険地区において、重点的に防災対策を行うほか、流域治水の取組と連携した、1級河川上流域等における治山事業を実施しています。

### 災害に備える

自然災害に対して事前に備え、県民の生命・財産を守る防災・減災対策の重要性は増しており、国、県では毎年5、6月に山地災害防止キャンペーンを実施しています。

山地災害はある日突然やってきます。身の危険を感じたら早めの避難をすることが防災・減災の第一歩です。県の動画ポータルサイトgunosys、山地災害の危険信号などを紹介する動画「山を治める」を公開していますので、ぜひご覧ください。



令和4年度 山地災害防止キャンペーン  
 11月5日(木)～6月30日(水)  
 主催 林野庁・環境省 協賛  
 実行委員会 (株)山と川

(森林保全課治山係)

# 普及コーナー

## ぐんまの木製品展示会 in 高崎 O P A

県庁林業振興課では、令和4年3月19日（土）～21日（月・祝）に高崎OPPA8階イベントスペースを会場として、ぐんまの木製品展示会を開催しました。

この展示会は、森林資源に恵まれた本県の木材を使った個性豊かな木製品を紹介し、県産木材の魅力と県内事業者の高い技術力を発信することを目的としたものです。

会場では、広葉樹や尾瀬の木道の廃材を使用したヘッドホン、県産のスギやヒノキを使用したウクレレやスノーボード、広葉樹と針葉樹を組み合わせたテーブル、間伐材を原料に蒸留したアロマエッセンスのほか、食器や2×4材を使用したパーティションなどを展示。さらに、本県のウツドスタート宣言コーナーでは、市町村の誕生祝品や県内事業者が製作した木のおもちゃなどを展示しました。

コロナ禍による行動制限が緩和されたことや、多くの買い物客が訪れる商業施設での開催であったことから、3日間で約9百人が来場し、県産木製品の魅力についてPRすることができました。

また、展示会場で来場者に対して行ったアンケート結果はグラフのようになり、全体的に好意的なイメージを持たれていることがわ

かりました。

直接商品に触れて木製品の魅力を理解してもらおう機会を増やすことや、今回のような展示会をいろいろなどところで開催したら良いという意見もあることから、今後も様々な形で展示を行い、ぐんまの木製品の魅力を発信していきたいと思えます。

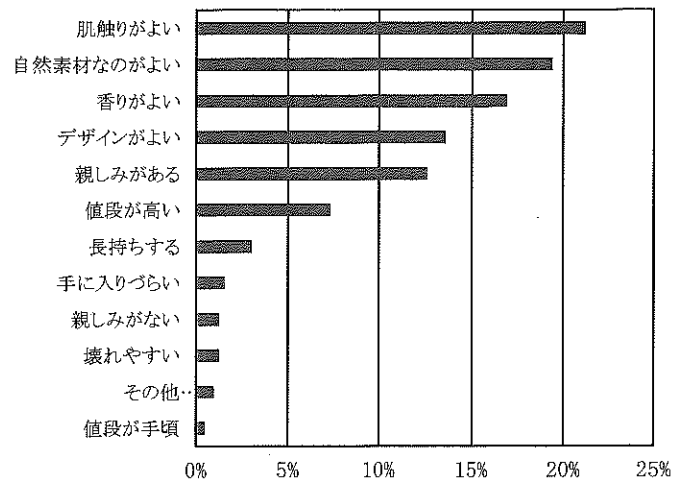


木の家で遊ぶ子ども達



展示会パンフレット

来場者アンケート結果「木製品についてのイメージ」



ウツドスタート宣言コーナー

# の便り

## 「クマに注意」林業現場のクマによる人身被害と対処・防止対策などの報告



**事業課長 大塚さん**  
救助について組合から表彰  
なるも、182  
cmの大塚課  
長に見下ろ  
された170cm  
程のクマは  
ゆっくり背

例年春から秋にかけてはクマの目撃等の件数が多くなっています。令和3年度は県内のクマによる人身被害が7件発生しました。このうち2件は渋川森林事務所管内で発生し、うち1件は赤城南麓森林組合の林業現場で起きました。被害に遭ったのは、組合期待の若手技術員Aさんで、一緒に刈り払い作業を行っていた同組合事業課長大塚さんによると、Aさんが区域調査をしていたところ、20m程先に突然現れたクマが突進してきて、顔を引つ掻き、臉を裂かれ、逃れるためうつ伏せになると、馬乗りになられ、更に手や肩を咬まれました。大塚課長は、刈り払い機のエンジン音にかき消されるかすかな声に気づいて事態を把握、恐怖を感じながらも、「助けない訳にはいかない」との決心から、Aさんを傷つけない様に刈り払い機のエンジンを止め、これで3回クマを殴打したところ、ゆっくり立ち上がってきたクマと対峙することに

後の藪へ帰って行ったとのこと。クマが去り、大塚課長は先ず組合事務所に電話連絡し救急要請を依頼、救急車を組合事務所へ向かわせ、現場から組合へのAさんの搬送は大塚課長が担当しました。これは救急隊と山奥の林業現場で合流するのは難しいことと、自ら被害者救助の初動を担うことで、早急にAさんを救急隊に引き継げるとの判断からです。一連の救助活動での冷静な判断は、大塚課長の10年以上にも及ぶ消防団員活動や狩猟経験（わな猟・銃猟）が生きた様です。一方、森林組合では事態を受け対策を検討し、クマよけスプレーの追加購入、野外用ポータブルラジオの新規導入、このほか渋川森林事務所の提案なども踏まえて電子ホイッスルも導入しました。また現場状況によっては複数人作業を徹底し、現場に着いたら先ず大声を出す様に心掛けています。今回の件を、県内の林業事業者等の皆様にも「人ごとでは無い」と受け止めていただき、林業現場でのクマ対策を再確認し、クマによる人身被害の防止に努めていただけたなら、負傷したAさんの傷も癒やされることでしょう。



導入した電子ホイッスルなど

(渋川森林事務所通信員)

## 城下町にとけ込む木造校舎

令和2年12月に竣工した高崎市立箕輪小学校の木造新校舎での授業が始まってから一年以上が経過しました。この小学校は、戦国武将の長野氏が築城し、井伊氏の高崎城移転に伴い廃城となった箕輪城の城下に位置します。

新校舎の構造は木造一部RC造の二階建て、延べ床面積は約六千平方メートルです。素人表現で恐縮ですが、建物の外観は寄棟と切妻を備えたような屋根を持ち、コの字のような配置の総二階の建物となっています。また、南には時計台や複数の半円窓が設置されており、学校周辺の景観とも調和した存在感のある姿です。外壁は杉板張りや漆喰調の塗り壁で、内装にも多くの木材を使用した温かみのあるものとなっています。木材使用量は約千三百立方メートル、使用した主な樹種はスギ、カラマツ、ヒノキです。

児童や先生方からは「木の匂いが良い」「温かみがある」「明るく優しい」「快

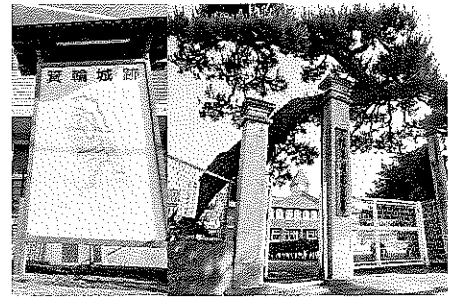


校舎の外観

# 各地



「適に過ごせる」などといった感想があったそうです。木材は人間にとって適度な硬さや触感を持ち、幅広い項目で適度な性能を持っていることから、飽きず



校門と城跡案内

穩やかに使える木の良さを感じていただいているようです。また、コンクリートや鋼材に比べ、加工に必要なエネルギーも少なくして済むことから、積極的に利用されるべき材料といえるでしょう。

高崎市では、地元材木商組合や森林組合と連携を図りながら、公共建築物への高崎産木材の利用を積極的に進めています。箕輪小新校舎で使用されている柱や土台などの構造材は、そのほぼ全てが市産木材であり、総木材使用量における割合は7割に及びます。また、前述の国指定史跡の箕輪城跡の整備事業などでも市産木材が使用されています。

今後、コロナ後の落ち着いた生活が進むなか、地域の人々の実情や要請にマッチした、長く愛される地元の木の活用が進むことをしよう。

(西部環境森林事務所通信員)

## 藤岡市産材を活用した「ふるさとの木で家づくり支援事業」

藤岡市では、森林を守り、育て、活用する循環型の森林政策の一環として、地域材の活用を推進しています。林業ぐんま2021年秋号で「藤岡市産材を活用した新生児への積み木の贈呈」について紹介しましたが、今回は「ふるさとの木で家づくり支援事業」を紹介しします。

今年度から、森林環境譲与税を活用し、地域材を使用した住宅を藤岡市内に建築する人に対して、使用量に応じた補助を行う事業を始めました。

「ぐんま優良木材」

のうち、市内で伐採された木材、または、市内の製材工場等で製材または加工された木材を条件とすることで、市内の森林整備の推進を図り、森林資源の持続性と林業や森林資源を利用する産業への貢献をしていきたいと考えています。助成の要件は地域材

を使って自身が居住するための住宅を市内に建築することで、店舗付住宅などの併用住宅の場合も、住宅部分の地域材材積に対して補助を行います。その他施工業者が、市内に事務所を有し、建築工事一式の許可を受けていることなどを要件としております。

また、転入定住者の促進を図るため、市外から藤岡市に転入する場合、さらに鬼石地区に助成対象の住宅を新築して転入する人にはさらに加算した助成が受けられます。

この支援事業の活用により、藤岡市産材の住宅が多く建てられ、林業振興に繋がることを期待しています。

(藤岡森林事務所通信員)

郷土を愛し未来を創生する 群馬県 藤岡市

## ふるさとの木で家づくり支援事業のご案内

地域材「i」を使って、自身が居住するための住宅を藤岡市内に新築する人を支援します。

※1「ぐんま優良木材」のうち「藤岡市内で伐採された木材」又は「藤岡市内の製材工場製材又は加工された木材」

※2暖かい住まいを創る人を創生します。藤岡市に転入後1年以上又はこれより転入しようとする人、藤岡市から転出後3年以上が経過し、再度転入する人

※3鬼石地区に助成対象の住宅を新築して転入する人は、さらに10万円の助成が受けられる制度があります。鬼石地区の助成については問合せ先

鬼石総合支庁 鬼石町民課 TEL: 0274-52-3111

詳しくはこちらへ

藤岡市役所 森林課  
TEL: 0274-40-2315  
Mail: strin@city.fujioja.gunma.jp  
藤岡市

藤岡市では、森林を守り、育て、活用する循環型の森林政策の一環として、地域材の活用を推進しています。

補助区分	補助金額
地域材使用対象	
12㎡未満	15万円
12㎡以上～15㎡未満	20万円
15㎡以上	25万円

店舗付住宅などの併用住宅の場合は、住宅部分の地域材材積が対象です。

補助区分	補助金額
市外から藤岡市へ転入	10万円

# の便り

## まだまだ活躍デルピス号

甘楽富岡地区の原木しいたけ生産現場では、今でも原木切り出しやホダ木の移動にデルピス号が利用されています。昭和三十年代に3輪駆動の運材車として開発されたデルピス号は、平成初期に生産が終了しました。下仁田町の製造メーカーは廃業し、純正部品は入手困難となっています。そのような状況で、なぜデルピス号を使い続けているのか？軽トラックでは代用できないのか？疑問に思い、原木しいたけ生産者である下仁田町の吉田栄彦さんと富岡市の富澤良文さんを訪ねました。

お二人のお話では、デルピス号はスマートで幅員1.5m程度の作業路でも通行でき、急な傾斜地でも登坂し、降坂時にはエンジンブレーキがよく効くので荷台に原木や



富澤さん所有、デルピスM550



吉田さん所有、デルピスDP660

ホダ木を積んでいても安全で確実に止まること、ウインチが付いているので倒木を移動する時等にも役に立つそうです。

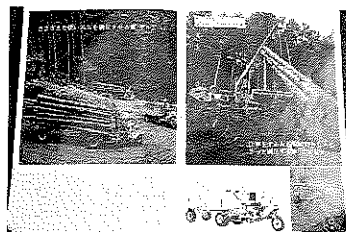
デルピス号の最大積載量は150kg（排気量660ccの機種）で軽トラックの最大積載量350kgを圧倒します。デルピス号はパワー重視で低速走行に特化しているので一般道では軽トラックに敵いませんが、細い山道でその力を発揮します。

原木しいたけ生産の相棒であるデルピス号を長く使い続けるため、お二人ともメンテナンスや修理は自身で行い、手に負えないときはデルピス号を製作していた「農林機械研究所」の元工場長で地元にお住まいの今井さんに修理を依頼しているそうです。

重いホダ木や菌床ブロックの移動など、きのこ生産は重労働であり、様々な機械の使用が不可欠です。

地域のきのこ生産を今後も支えていくために、生産者の負担軽減が重要な課題です。

かつてのデルピス号のような安価で使い安い機械装備の新たな開発を期待しています。



吉田さん所蔵のデルピス号のカタログ（発行時期不明、昭和50年位と推測）

（富岡森林事務所通信員）

## 春の緑化行事「緑の募金・苗木配布会」を実施

吾妻地域では、例年春の緑化推進運動の期間に開催していた「街頭募金及び苗木配布会」ですが、令和2年度は実施せず、令和3年度は1箇所のみでの実施となりました。本年度は各町村の協力を得て、3箇所で開催することができました。

中之条町では春の大型連休初日の4月29日に中之条ガーデンズで実施、長野原町では4月30日に道の駅「八ッ場ふるさと館」の8周年記念創業祭にあわせて実施しました。

また、嬭恋村では5月2日に、鎌原観音堂の入り口に令和2年8月にオープンした村営



中之条町「中之条ガーデンズ」





の農産物等直売所「あさまのいぶき」で実施しました。

新型コロナウイルスの感染拡大後、3年ぶりに緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出されていない連休期間中ということもあり、どの会場も多くの方が訪れていました。

道の駅八ツ場ふるさと館では、県外から訪れた方も多く、観光の途中ということで、「苗木は持ち帰れないが募金だけでもいい。」といった声も聞かれました。

苗木を受け取った方からは、「大事に育てます。」や「どのように管理したら上手に育ちますか。」といった声が聞かれ、緑に触れる機会を提供することによる緑化推進運動の意義を実感することができました。



婦恋村「あさまのいぶき」

(吾妻環境森林事務所通信員)

## 利根沼田森林組合の 広葉樹利活用の取り組み

利根沼田森林組合は、従前から針葉樹の他広葉樹の販売を行っていましたが、令和2年度からその取り組みを強化。今までは現地に伐り捨てるが多かった伐採後の広葉樹を積極的に搬出し、原木のほか、組合で所有する簡易製材機を使用したり管内の製材工場に依頼したりするなどして板材を生産し、様々な樹種の板を一枚から販売しています。

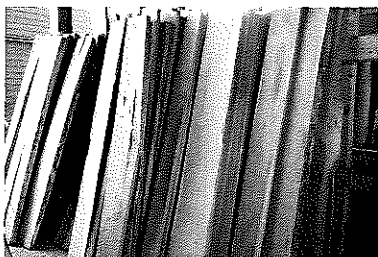
令和2年度当初は、住宅などの内装用として使われることを想定し、管内工務店などへの宣伝を行っていましたが、木のおもちゃや楽器、広葉樹集成材の材料などとして引き合いがあったことから、広葉樹のニーズの高さを実感。広葉樹材の可能性を感じて、積極的に事業者との商談を行い、まだ取引量や事業者数は多くはないものの、家具やインテリア小物、内装材の製作・製造事業者などとの取引が始まっています。

また、当組合は木材加工部門も持っていることから、原料として販売するのみではなく、自らも加工して販売することも検討。木育教室で使用してもらうための広葉樹を使用したおもちゃやオーダー家具を製作するなど、新しい事業を本格的に行う予定です。

広葉樹利活用の取り組みは、いまだ手探り

状態とのことで、組合の佐藤博久専務は、「10の企業と打合せをして、実際に取引が始まりさらに継続するのは、一、二社と思っている。だからこそ今つながりのある企業を大切にしたいし、今後も幅広い事業者と話ができればと思っています」と話していました。

県産木材の高付加価値を目指すためには建築用材以外でも積極的に木材が使われることが重要です。利根沼田環境森林事務所では、今年度管内事業者の製品を含めた県産木材製品展示会を開催する予定にしており、広葉樹の製品も積極的にPRしていきます。



倉庫に並べられた広葉樹板材



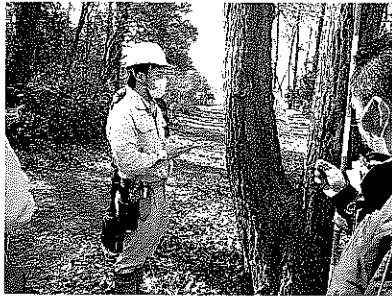
様々な樹種を使用した木のおもちゃ

(利根沼田環境森林事務所通信員)

# 各地の便り

## 館林市で発生した ナラ枯れ対策について

令和四年二月下旬に県民から館林市の野鳥の森自然公園でナラ枯れらしき被害木があるとの通報があり、同年三月十日に館林市、林業試験場、林政課、桐生森林事務所で現地調査を実施しました。当日は、林業試験場の職員からカシノナガキクイムシの特徴等の説明を受けた後、ナラ類などドングリがなる木について被害が疑わしい木にテープを巻きました。翌日に三十cmの長さに玉切りした検体を採取し、三月十五日に国立研究開発法人森林総合研究所に持ち込んだところ、カシノナガキクイムシの成虫が発見され、ナラ枯れと確定しました。県内では、みなかみ町に次ぐ二例目の発生となりました。



林業試験場による説明

ナラ枯れ対策として重要なことは、発生初期段階で防除を行うことです。館林市のような暖かい地域では、五月下旬からカシノナガキクイムシの飛翔活動が予想されるため、早急な予防対策が求められました。そこで、職

員直営で殺菌効果のあるウッドキングという薬剤を健全木に樹幹注入することとなり、四月二十日に関係機関合同で実施しました。当日は、最初に薬

剤メーカーからレクチャーを受けた後、三人一組で注入作業を行いました。手順は、電気ドリルで孔を開け、薬



樹幹注入の説明

孔を注入し、テープを巻いていく作業になりますが、孔数は胸高直径が太いものだと一本で三十一個も孔を開けます。孔の位置はカシノナガキクイムシの特性からなるべく根元付近がよいとのこと。孔は薬剤が漏れないよう斜め四十五度に約4cm開け、一孔に0.5mlの薬剤を注入します。結局、予定どおり全部で百六十九本に薬剤注入が出来ました。被害木の一部は館林市が伐倒し、六月二日に、関係機関合同で被害木や被害木の周辺に誘引トラップと粘着シートを設置しました。今後は、発生が広がらないよう早期発見が大事になりますので、現場に出かけた際はコナラ類の枯損やフラス等に十分注意したいと思います。

(桐生森林事務所通信員)

～森と緑と笑顔のために～

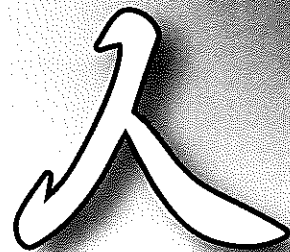
一般財団法人 **群馬県森林・緑整備基金**

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935

群馬県林業試験場 別館内

TEL 027-386-5901 FAX 027-386-5902

# 地域を担う



鳥川流域森林組合

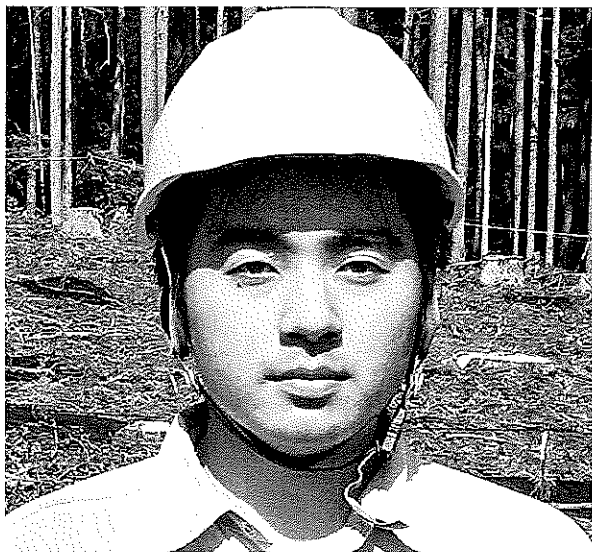
反町 虎太郎さん

一 趣味 味

映画鑑賞、音楽鑑賞

二 今後の抱負

緑の雇用の研修では、さまざまな事業体の仲間とともに、貴重な技術を学ぶことができた。  
 今後は、これらの技術や、日々の作業での先輩からの指導をしっかりと身に付け、自分の仕事に自信と誇りが持てるよう精進していきたい。



原澤林業株式会社

阿部 真典さん

一 趣味 味

キャンプ、焚火、フットサル

二 今後の抱負

二〇二二年度末に緑の雇用事業を三年間修了することができました。事業担当者の方、担当指導員の方からの指導内容を今一度見直し、学んだ基本知識と基本作業を忘れずに自身の経験にしたいと考えています。

林業はとても危険で大変な作業です。一つとして同じ立木が無い日々の作業は、毎日が経験であり一生技術向上が必須であると私は考えています。毎日1%以上の成長を心がけて、フォレストワーカーとしての道を歩んでいきたいと考えています。



「読者からの投稿を募集しています」  
 「林業くんま」では、読者からの投稿を随時募集しています。

林業に関わる身近な話題や、共有したい貴重な情報などを、是非お寄せください。お待ちしております。

群馬県林業改良普及協会

# 森の談話室

## プレカット加工機の導入と 林業振興、地域振興

多野産業株式会社

代表取締役社長 小坂裕一郎さん

藤岡市で、木材製材、プレカット、建築と様々な木材を取り扱っている多野産業株式会社代表取締役社長の小坂裕一郎さんにお話をうかがいました。

はじめに、会社は、先々代の社長が昭和8年に藤岡で製材所を始め、昭和30年頃に公共建築、昭和40年代には製品販売を行うようになりまりました。

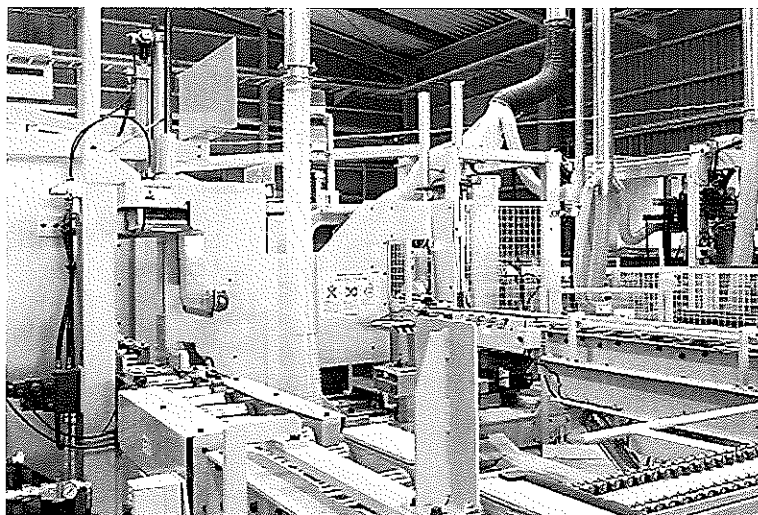
その後、先代から会社を引き継ぎ、昭和58年に住宅建築に使用する木材を工場で切断・加工するプレカット加工を始めました。当時の木造軸組構法におけるプレカット材の利用は少ないながらも、将来を予測して会社の業態を変えていきました。その後、集材材の普及とともに生産を増やし、現在ではプレカット率は90%台となっています。

ここ10年ほどは様々な規格の製品販売にも力を入れて、材木屋のコンビニ化を目指しています。会社の理念は、「多野産業に行けば金物以外はなんでも揃う」「必要なものを必要なお客さんにお客さんに届ける」という、いわゆるトヨタ生産方式を行なっています。

昨年度、プレカット加工機が、30年近く経過して加工精度が低下し、生産効率が悪くなったことから、群馬県林業・木材産業成長産業化促進対策事業でプレカット加工機を導入しました。

以前より効率的かつ正確に生産ができるため、生産効率が向上し、従来よりも年間生産量が5割程度増加します。

地域に根ざした会社だからこそ、地元の大工務店を対象とした仕事を大切にしたいという思いを強く持つておられるそうです。



プレカット加工機

ウッドショックの影響についてうかがったところ、ウッドショックの恩恵を一番受けているのは製材工場ですが、原木の値段も上がっているのです。山もある程度は潤っています。せつかくのチャンスですが、山は人手が足らなくてなかなか増産ができません。長く材価が安くて山にお金を返せないことが、こんな状況を生んだのだらうと思います。

山にお金が返せて、林業で稼げるようになれば、山の手入れができて、森林が豊かになる。そうすればCO2の吸収量も増え、水も豊かになっていく。その水で発電した電気を使って地域の産業が成り立つ。そんな流れができていけばとの思いだそうです。ウッドショックで今までにない木材流通の変化が起きて、山が元気に、群馬が元気になることを期待しています。

小坂社長は藤岡商工会議所の会頭もされていて、世界遺産登録の時にイコモスの対応をされたことなど様々なお話をうかがえました。



小坂社長

(藤岡森林事務所通信員)

# 群馬産ムキタケの栽培実用化を目指して

近年、きのこ菌床栽培は光熱水費や資材の価格高騰、さらにコロナ禍が追い打ちをかけ、生産者の経営が一段と厳しい状況となっております。そのような中、試験場では経営安定の一助とするため、高値で取引される可能性のある新しいきのこの研究に取り組んでいます。今回はその経過についてご紹介します。

本研究はR元々5年度「群馬県産オリジナルきのこの栽培実用化」という課題です。現在対象としているきのこは「ムキタケ」です(図1)。ムキタケは、傘の径10cm程度で半円(腎臓型)をしており、秋にブナやミスナラなどから発生するきのこです。群馬県内では、主に北毛など冷涼な気候の場所で見られます。栽培については、全国的にも、また群馬県内でも事例が少なく、比較的珍しいきのこです。汁物、鍋物、炒め物など様々な料理に利用でき、つるつとした独特な食感が楽しめます。商品性が高いきのこと考えられるため、対象としました。さらに本研究では、群馬県ならではの特色を出すため、特に群馬県内で採取されたムキタケの中から優良な菌株を選抜することとしました。

試験場には約2千株の野生きのこ菌株が保存されており、その内ムキタケは135株を占めています。その135株について、シャーレによる試験を1回、おが粉培地による栽培試験(図2)を2回実施し、8株のムキタケ

を選抜しました。選抜したポイントは第一に収量と栽培日数です。なお、収量が多くても形状が悪いものは選抜から除外しました。今後は、その8株に対して味、栽培しやすさといった要素も考慮してさらに選抜を行います。

現在、試験場職員による食味試験と生産者による実証試験を実施中です。

食味試験は、選抜したムキタケを試験場職員が試食し、味についてアンケート形式で回答するという試験です(図3)。菌株によって、味にも違いがあることから、なるべく味の良いきのこを選抜したいと考えています。また、今後は客観的なデータを得られる科学的分析手法も用いて、味について調査する予定です。

生産者による実証試験は、県内の数名のきのこ生産者に依頼して、選抜株を栽培してもらうという試験です。栽培の結果、きのこが実際に出来るか、栽培しにくい点はないか、収量や色・形はどうか、販売した感触はどうかなどの意見をいただきます。これらの意見を参考にして、選抜や栽培方法の改善に生かす予定です。

将来的には、ムキタケを群馬県の名産きのこの一つとしたいと考えています。まずは直売所や道の駅での販売を目指していきます。見かけた際にはぜひ手にとって食べてみてください。

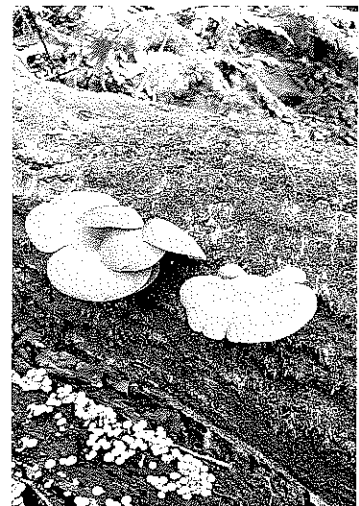


図1 野生のムキタケ



図2 おが粉培地を用いた栽培試験の様子



図3 ムキタケ食味試験

# トピックス

## 林業改良普及協会 第六十三回通常総会

第六十三回通常総会を五月二十六日、群馬県前橋合同庁舎において、須田恵理子県環境森林部長（知事代理）、星名建市群馬県議長をはじめとする多くの来賓の方々をお迎えし、三年ぶりに開催することができました。開会に先立ち狩野会長は、「収束の見えないコロナ禍の中、こうして通常総会が開催できますことを心から感謝します。一昨年、群



あいさつする狩野会長

馬県が策定した『群馬県森林・林業基本計画2021―2031』の計画の達成に向けて、本会としても全国の優れた事例や最新の林業技術、林業現場の状況等を皆様に紹介し、普及することを通じて『林業県ぐんま』の発展にお役に立てればと願っています。」と述べました。つづいて来賓で駆けつけてくださった須田環境森林部長、星名群馬県議長より丁寧なご祝辞をいただきました。

その後、令和三年度優良林業推奨行事表彰式を行い、議事に入りました。

議案については、①令和三年度事業報告及び収支決算の承認②令和四年度事業計画及び収支予算の決定③令和四年度会費の賦課額及び納入方法等の決定④役員選任のすべてにおいて、原案どおりに承認をいた

### ◆令和4年度 収支予算

単位：円

収 入		支 出	
科 目	予算額	科 目	予算額
1 会 費	1,838,000	1 会 議 費	140,000
(1) 団体法人	1,010,000	(1) 総会費	70,000
(2) 個人	828,000	(2) 役員会費	70,000
2 事業収入	660,000	2 事務費	1,750,000
(1) 図書斡旋収入	100,000	(1) 旅費	30,000
(2) 販売収入	30,000	(2) 消耗品費	70,000
(3) 道路保安標識販売収入	110,000	(3) 通信運搬費	80,000
(4) 受託収入	40,000	(4) 事務所費	220,000
(5) 広告収入	380,000	(5) 事務委託料	1,350,000
3 補助金	2,000,000	3 事業費	2,110,000
(1) 協会育成事業	2,000,000	(1) 林業情報活動事業費	860,000
4 全林協還付金	50,000	(2) 林業経営等新規参入者支援事業費	40,000
5 雑収入	1,664	(3) 優良林業推奨行事費	80,000
6 繰越金	370,336	(4) 林業新知識購入費	810,000
		(5) 図書斡旋費	10,000
		(6) 販売事業費	30,000
		(7) 道路保安標識事業費	10,000
		(8) 教育情報事業費	120,000
		(9) 地区協会運営助成	130,000
		(10) 県林研助成費	10,000
		(11) 普及事業協力費	10,000
		4 負担金	100,000
		5 予備費	790,000
		6 雑費	30,000
計	4,920,000	計	4,920,000

いただきました。（承認された令和四年度収支予算は、左表のとおりです。）

役員選任によって、つぎの新監事二名が選任されました。

監事・高橋 範行・和南城 修一

（任期は、令和五年度通常総会の日まで）

# トピックス

## 令和三年度優良林業 推奨行事表彰式

群馬県林業改良普及協会では、群馬県と共催し「優良林業推奨行事」の中で「林業経営推奨行事」の表彰を実施しています。

令和三年度の表彰式は、当協会の通常総会に先立ち行われ、林業経営推奨行事に金井生産森林組合が入賞され、群馬県知事、群馬県林業改良普及協会長から賞状と記念品が贈られました。

金井生産森林組合は、所有山林の7割について森林経営計画を樹立し、作業の効率化を図るため、組合長を中心に積極的な情報収集を行い経営の健全化を図っています。

さらに、地元保育園に対して遊戯用の森林の提供や、県道・市道の草取りや不法投棄物の除去を行うなど環境美化の保全に努めるなど、地域貢献もされており、周囲の良き模範となっていることが評価され受賞となりました。

また、第60回農林水産祭参加の「全国林業経営推奨行事」に推薦したところ、大日本山林会会長賞を受賞されました。

令和三年度の間伐コンクール表彰については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、中止となりました。



表彰式の様子

令和三年度林業経営推奨行事入賞者  
最優秀賞（群馬県知事賞）  
金井生産森林組合

## 月刊 林業新知識

山林所有者の皆さんとともに歩む月刊誌です。  
仕事と暮らしの現地情報が読める実用誌です。

## 月刊 現代林業

激動の時代に対応したテーマを、読者の立場でわかりやすく  
「そこが知りたかった」が読める月刊誌です。

◆お問い合わせ・お申込みは、群馬県林業改良普及協会へ◆  
TEL 027-280-6259 FAX 027-255-6265

仕事を通じて郷土に奉仕



# 石坂建設株式会社

代表取締役 諸田 光二

〒379-1203 群馬県利根郡昭和村糸井2308

☎ (0278) 22-4559(代) FAX (0278) 23-3077



# 株式会社新井土木

代表取締役 新井 正則

〒376-0306 群馬県みどり市東町荻原140番地

since 1911

TEL 0277-97-2418 FAX 0277-97-3110

森林土木事業を通じて、山村の安全・安心と山村振興に貢献

# 群馬県森林土木建設協会

会長 山藤 浩一

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7(群馬県公社総合ビル6階)

☎ (027) 280-6256 FAX (027) 255-6265

E-mail:gun-sidokeki@tiara.ocn.ne.jp

## ウッド・チェンジ

### 建築物の木造化・木質化を推進しよう！



ぐんま優良木材品質認証センター

〒379-2131 前橋市西善町524-1

電話:027-266-8220

<http://www.gunma-wood.com/>

表紙の写真

令和三年度群馬県森林土木写真コンクール優秀賞受賞作品  
撮影場所 甘楽郡南牧村大字六車(堂向)地内  
撮影者 富岡森林事務所 前嶋 佳太

題名 「県産材で落石防護」